

福岡県のスポーツをより元気に スポーツの力で福岡県をより元気に スポーツ立県福岡



主催:福岡県人づくり・県民生活部 スポーツ局 スポーツ振興課
主管:福岡教育事務所 社会教育室

令和2年度福岡地区地域スポーツイノベーションカレッジ

令和2年10月21日(水)に、福岡県吉塚合同庁舎にて、福岡教育事務所管内16市町および福岡市のスポーツ担当者(イノベーター)が集まり、今年度の「福岡地区地域スポーツイノベーションカレッジ」を開催しました。

カレッジのプログラムは以下の通りです。

- 1 説明「コロナ禍でイノベーションを考える意味」
福岡県人づくり・県民生活部 スポーツ局スポーツ振興課 事務主査
福岡教育事務所担当 上野 貴裕
- 2 事業紹介
 - (1)「ふくおか健康ポイントアプリ」
福岡県保健医療介護部健康増進課 主任主事 新名 慶子 氏
 - (2)「包括連携協定締結による自治体スポーツ課様との協働取組のご提案」
大塚製薬株式会社 ニュートラシューティカルズ事業部 福岡支店
ソーシャルヘルス・リレーション担当係長 大田原 美奈子 氏
 - (3)「コロナ禍におけるスポーツ推進 ～『すご技動画募集』の取組～」
古賀市教育委員会 生涯学習推進課スポーツ振興係
主任主事 渡辺 剛 氏
- 3 協議「イノベーションを起こすためのアイデアづくり」

1 説明

はじめに、本カレッジの目的や当日の流れについて、担当から説明を行いました。これからの時代は、各自治体で他部局や民間企業との連携が一層求められることや、事業紹介・協議を通して、新型コロナウイルス感染症の影響下でいかにスポーツを推進していくかを考えてほしい旨を話し、今回のカレッジの意義を共有しました。

本カレッジに至るまで計2回、各市町を訪問する中で明らかになった「各市町のスポーツ推進上の課題」を大きく4つに分類し、協議は4グループで行うことを説明しました。



【4つに分類した福岡地区の課題】

2 事業紹介

(1)「ふくおか健康ポイントアプリ」

福岡県保健医療介護部健康増進課の新名氏から、令和2年2月から始まった「ふくおか健康ポイントアプリ」についての事業紹介がありました。アプリが生まれたきっかけ・現状と課題・市町への要望などのお話がありました。

スポーツ庁の方針の中でも、各自治体でスポーツ振興を進めていく上で、他部局との連携は重要と位置付けられていることから、市町の健康・福祉部局との連携の重要性を考えさせられる内容でした。



【県健康増進課の新名氏からの事業紹介】

(2)「大塚製薬との包括連携協定」

大塚製薬株式会社の大田原氏から、包括連携協定締結による協働取組について事業紹介がありました。市町と包括連携協定を結ぶと、市町の中でどのようなことができて、どのようなメリットがあるのかの説明が行われました。

参加者からは、具体的に、大塚製薬と連携協定を結ぶまでの流れや、実際に連携協定を結んだ自治体の事例等についての質問が積極的に行われました。



【大塚製薬の大田原氏からの事業紹介】

(3)「コロナ禍におけるスポーツ推進」

古賀市生涯学習推進課の渡辺氏から、「市内で活動するスポーツ推進委員にいかに関与の場を設けるか」という点を中心に、10月までの活動についてお話していただきました。

体力テストの測定会や、各種スポーツ教室での補助だけではなく、主体性をもって市内のスポーツを推進してもらうために、何度も協議を重ねて実現した「すご技動画」の取組を、実際の動画も交えながら説明していただきました。



【古賀市の渡辺氏からの事業紹介】

3 協議

「コロナ禍のスポーツ」「外部との連携」「スポーツイベント」

「これから進めるべきもの」の、4つの課題ごとにグループに分かれて協議を行いました。まず、各グループごとに、青の付箋には「課題」を、ピンクの付箋には「アイデア」を出し合いました。次に、自グループでの交流の後には他のグループの協議内容をヒアリングしに行く時間を設けました。協議の最後には、各グループの協議内容について報告を行いました。



【A グループの協議の様子】



【B グループの協議内容の発表】

【全体を通して】

今回、14市町からの参加があり、事後アンケートでは次のような感想がありました。

- これまで、所属する課の中だけでスポーツイベントや教室を考えていたが、スポーツと健康は密接に関わっているので、今後は健康・福祉部局との連携を図っていきたい。
- 行政だけではなく、民間企業と連携してスポーツ推進を考えていくことも一つの手だと感じた。まずは、市内の課題を整理し、ニーズに合わせてコンテンツを考えていきたい。
- 古賀市と同じことはできなくとも、スポーツ推進委員と意見を交わし、要望を聞くことはできる。自分の市（町）にふさわしい活用の仕方を考えていくきっかけになった。

今回のカレッジをきっかけとして、ある市では、「ふくおか健康ポイントアプリ」を活用して健康イベントを行い、目標を達成すると参加者が大塚製薬の商品がもらえる、という企画も生まれ、早速動いています。

今後も、各市町のスポーツ行政における課題やニーズを把握し、今回のようにスポーツ担当者が事業紹介を聞く場や、一つのテーマについて協議する場を設ける等して、各市町が有意義な情報を得ることができるよう、引き続き努めて参ります。